

平成20年第2回定例会（6月）一般質問（要旨）

（1）各種協議会等の活性化について

質問・宮下

各種協議会等は「専門的な議論をする場」であり「情報の発信地」「町民と行政をつなぐパイプ」であると考えます。つまり、自分達の問題を自分達で解決するという協働の精神を体験する場であり、委員の入れ替わりや様々な人が関わることが重要である。しかし、様々な協議会等に出席するようになって感じたのは、

- 同じ顔ぶれ、似通った目的を持つ組織が多い
 - 会議が儀礼化し、新たな発想や展開が少ない
- ということ。私は活性化を阻害する要因が「委員の長期在任」や「構成」にあると考えた。

【現状と問題点】

- 委員の再任に上限がない
 - ▲ 安易な再任にならないか
- 団体や地域への当て役
 - ▲ 同じ時期に同じ人が多数の委員になる
 - ▲ 女性や若い世代が少ない

町長はどのように考えるか伺いたい。

回答・町長

人口4,000人で高齢化も進んでいる現状では、一人が二役三役を持っているのは致し方ない。また長期在任が全て悪いわけではない。経験は多くの活動の基礎であり、長期間一生懸命やってもらっている。私のところに長期在任弊害の声は届いていない。また（当て役とした）所属団体の推薦に、行政が立ち入るのは筋違いと考える。

再質問・宮下

「4,000人も人がいる」というとらえ方はできないか。経験が重要というが最初は皆一年生、新しい人が経験を積むことも重要である。また「委員のなり手がいない」のは事実。町民の積極的な行政参加がなければ私の指摘した問題点を解決する術はない。

私が問題にしているのは、長期在任を認めざるを得ない制度や方向性であって、個別の問題ではない。施策によって委員のバランスをとり、住民の意思を反映することは何ら問題がないと考える。行政が先頭に立って意向を示す必要があるのではないか。時代を引っ張るのは行政の役目である。

これらの考えから、4つの改善を提案する。

町長の考えを伺いたい。

1. 再任の上限を決める。
2. 一般公募を取り入れる。
3. 地域担当者が人材を発掘し、登用する。
4. 当て役を行う場合、年齢や性別などの条件を付ける。

再回答・町長

1. 再任が悪いことは絶対でない。所管課も人を発掘する努力をしている。
2. 一般公募は今までも何度か取り入れているし、これからも行う。
3. 地域担当職員は地域の人材を全て掌握していると理解している。
4. 年代構成のバランスがとれていることは大事であるが、商工会や農協の青年部は人員が減っている。少ない人数で頑張っている組織に、さらに役を担ってもらうことは可能か？絶対数が足りないと考えている。